



ショートステイ利用の ご利用者を施設で看取る

社会福祉法人 梓友会 特別養護老人ホーム 太陽の里

長島 知美 (ケアスタッフ)
袴田 ひとみ (ケアスタッフ)

取り組んだ課題 (ご利用者様A様)

- ▶ (利用者) : A様 女性
- ▶ (死亡時年齢) : 101歳
- ▶ (要介護度) : 4
- ▶ (日常生活自立度) : A1
- ▶ (認知症自立度) : IIIa

取り組んだ課題 (ご利用者A様)

- ▶ 93歳まで一人暮らしをされていたが、手術、年齢的に要介護状態となり、長女宅に引き取られ生活をする
- ▶ 長女は仕事や地域活動で外出が多く、危険リスクがあった
- ▶ 介護認定を受け、介護サービスを利用開始
- ▶ 体力低下に伴い、自宅階段の昇降不可となりショートステイ利用が増加
- ▶ H28、4月、左頸部のウズラの卵大の膨らみを発見。頸部動脈瘤の診断を受ける

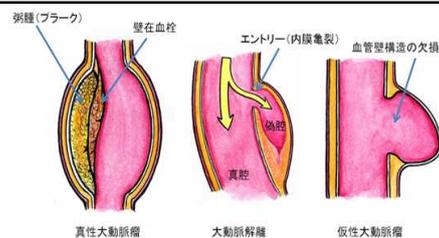
具体的な取り組み



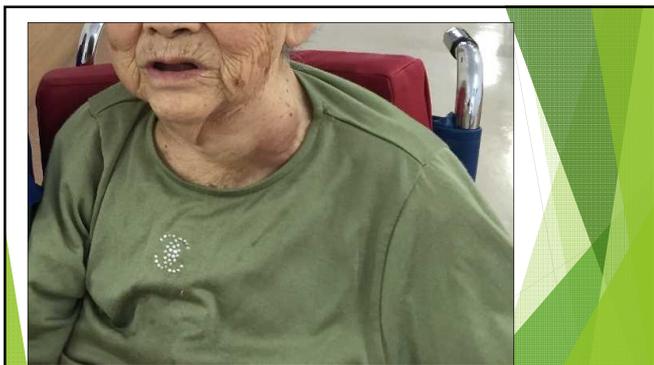
- ▶ 家族、ケアマネージャー、かかりつけ医、施設関係者によるサービス担当者会議を適宜開催
- ▶ 平成28年4月11日から平成28年6月6日の57日間、看取り介護開始となる



在宅介護の困難さ
自宅階段の様子



- ▶ 動脈瘤の理解、処置、介護方法
- ▶ 普段と変わらない生活リズム
- ▶ リスクに伴う介護に対しスタッフの不安軽減の話し合い



活動の成果

- ▶ 看取り介護後に振り返りアンケートを実施
- ▶ リスクのある場合、様々な観点から検討する
- ▶ スタッフの少なくなる夜間の対応の不安
- ▶ 他利用者がある中、頻回に訪室は無理ではないか

評価

- ▶ 食形態や臥床時の姿勢、衛生面などを話し合う事で連携がとれた
- ▶ かかりつけ医が施設嘱託医であったこともありすぐに相談できて安心感となった

今後の課題

- ▶ 在宅介護、自宅で看取る困難さ
- ▶ かかりつけ医と他医療機関との連携
- ▶ ショートステイご利用者の看取り介護の手順書作成の取り組み
- ▶ 一人暮らし、老々介護の高齢者が安心して過ごせる場所を提供する

ご清聴ありがとうございました

